



春日井ロータリークラブ

2022-23 WEEKLY REPORT

クラブテーマ

「仲間を増やして奉仕をしよう」



会長：加藤 宗生
 副会長：川瀬 治通
 副会長：芝田 貴之
 幹事：下田 育雄
 会報委員長：速水 敬志

事務局：春日井市鳥居松町 5-45
 TEL：0568-81-8498
 FAX：0568-82-0265
 E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp
 HP：https://www.kasugai-rc.org/
 例会場：ホテルプラザ勝川



2022年9月16日(金)2526回(9月第3例会)

本日のプログラム

- 司会 会場委員会
 会長 加藤 宗生君
 「われら日本のロータリアン」
 「赤とんぼ」
- ・点鐘
 ・ROTARY SONG
 ・今月の歌
 ・ビジター紹介
 キナンレーシングチーム監督
 春日井サイクルターミナル代表
- ・食事・歓談
 ・委員会報告
 ・祝福
 ・卓話
 ・幹事報告
 ・点鐘
- 会長 加藤 宗生君
 石田 哲也様
 伊坪 和哉様
- 幹事 下田 育雄君
 会長 加藤 宗生君

結婚記念日

30日 加藤久仁明君

夫人誕生日

2日 村瀬 昌史君・あすかさん
 4日 加藤 茂君・純子さん
 6日 長谷川智幸君・明子さん
 14日 森部 清孝君・有明さん
 28日 中川 健君・加代子さん

アテンダンス表彰

21ヶ年 近藤 太門君
 13ヶ年 和田 了司君
 9ヶ年 朽本 正樹君
 7ヶ年 小川 茂徳君

今月の歌

「赤とんぼ」

夕やけ小やけの 赤とんぼ
 追われて見たのは いつの日か

今月の祝福

会員誕生日

11日 大原 泰昭君
 13日 廣田 誠君
 17日 小川 茂徳君
 20日 友松 英樹君
 22日 加藤 昭博君
 23日 菱川 一馬君

【和食ランチ形式】

前菜/造り：玉子カステラ 焼き茄子胡麻和え
 天然鯛
 焼き物：海鮮ホイル焼き
 食事：零余子ご飯 香の物 赤だし
 デザート：栗プリン

	9月23日(金)	9月30日(金)	10月7日(金)	10月14日(金)
例会予定	休会	ガバナー補佐訪問	第4回理事会 11:15～	例会 12:30～
		11:30～会長幹事懇談会	例会 12:30～	未定
		例会 12:30～ 13:30～クラブ協議会	1982-1983年度ロータリー財団奨学生 同志社大学政策学部教授 川浦昭彦様	

先週の記録

会長挨拶

会長 加藤 宗生君

米山奨学生の劉 履壮さん、地区会員増強委員長の石井弘子君、名古屋学院大学の大家美咲さん、ようこそ春日井ロータリークラブの例会に参加いただきありがとうございます。

後ほど国際奉仕委員長の小柳出君からセブロータリー90周年の案内があると思います。台湾の東港ロータリークラブとの5年毎の姉妹クラブ提携はまだ決まっていますが、決まり次第報告したいと思います。

本日は日比雄将君、卓話をよろしくお願ひします。

以上、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

幹事報告

幹事 下田 育雄君

・先週の例会に先立ちまして、理事会が開催されました。

8月度決算承認・開始貸借対照表が承認されました。協議事項としてニコボックスの資金の使い道とその意義についてクラブとしての方向性をどのように明確にするのか、そして氷見ロータリークラブとの姉妹クラブ締結について、審議に諮れるようにするために協議させて頂きました。

報告事項として、セブロータリー90周年記念式典の件、ポイ捨て・ふん害防止について親睦委員会から9月30日のブレードン君のウェルカムパーティーの開催について報告がなされました。

・昨日、青少年奉仕委員会委員長の森部さんと一緒に、地区主催の危機管理セミナーにズームで参加をし、セクハラ、パワハラ等のハラスメント防止について理解を深めました。

・次週予告です

①9月16日はキナンレーシングチームの卓話となります

②9月23日は休会です

③9月30日はガバナー補佐訪問となります。まだカジュアル例会のタイミングとなりますがガバナー補佐がネクタイを着用されることですので、当クラブとしてもネクタイ着用でお迎えしたいと思います。カジュアル例会とはなりませんので、お気を付けください。また、例会終了後は入会3年未満の会員さんと理事役員・委員長さんはクラブ協議会が1時間以上ある予定ですので、90分以上のお時間の確保をお願いいたします。

④10月7日は1982-1983年度のロータリー財団奨学生として留学されました、現在同志社大学教授の川浦様に卓話をお願いいたします。

出席報告

委員長 下別府正樹君

会員 52名	出席 36名	出席率 69.2%
先々週の修正出席	出席 52名	出席率 100.0%

ニコボックス報告

委員長 下別府正樹君

○地区会員増強委員会から参りました。「ロータリー女性の集い」のPRをさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○日比君の卓話楽しみです。 加藤 宗生君
下田 育雄君

○昨日、森部さんに危機管理セミナーにご参加頂きましてありがとうございました。セクハラ、パワハラ、アルハラに気をつけましょう。

○石垣島はキレイでした 小柳出和文君

○本日、よろしくお願ひします。 日比 雄将君

○先週末、日曜日、2022 春日井トラックカーニバル 天候にも恵まれ事故もなく盛況に行う事が出来ました。関係団体の皆様に感謝と近藤太門さん 中日新聞に掲載有難うございました。

○日比 雄将君の卓話 どの様なお話が聴けるのか楽しみにしています。 古屋 義夫君

○家内の誕生祝いを頂いて 加藤 茂君
○10月9日 高蔵寺映画祭 春日 青山 博徳君
井市の後援ができました！

○来月、入る車はバック不要！勝手に車庫入れしてくれるそうです。ありがたい世の中です。 山田 治君

○風岡さん 昨夜はご馳走様でした。会員拡大ガンバリます。 野間 峰彦君

○日比さんの卓話を楽しみに 大原 泰昭君

○日比さんの卓話を楽しみにしています 川瀬 治通君

○卓話楽しみです。 風岡 明憲君

○卓話を楽しみにしております 岩村 幸正君

○日比君の卓話を楽しみに 近藤 太門君

○日比先生 卓話楽しみです！ 鈴木 克幸君

○日比先生の卓話に 小川 長君

○本日の日比君の卓話を楽しみにしております。

加藤 昭博君 北 健司君 芝田 貴之君

下別府正樹君 社本 太郎君 宅間 秀順君

長谷川久幸君 場々大刀雄君 村瀬 昌史君

和田 了司君

○ご協力ありがとうございます。

出席・ニコボックス委員会

卓話

日比 雄将君

名古屋学院大学 大塚 美咲様

東海テレワークの日比たけまさです。よろしく
お願いいたします。

本日は、諸先輩方前で卓話をさせていただきます
ことに感謝申し上げます。

私の話に入る前に、初々しい大学生を紹介した
と思います。

名古屋学院大学1年、大塚美咲さんです。
彼女は今、NPO法人ドットジェイピーが企画する
議員インターンシップ制度に応募し、私が受入議員
となって活動をしています。

ドットジェイピーは、若年投票率の向上を目標
に活動するNPO法人で、全国31拠点で約660人
の大学生スタッフが中心となり、春期(2月~3
月)と夏期(8月~9月)の年2回、学生を対象
とした議員インターンシップを展開、また若年層
向け政策コンテストを実施している団体です。

私はこの団体の主旨に賛同し、当選した年から
毎年学生を受け入れており、これまでに40名以
上の学生を受け入れてきました。例年ですと2~
3名を受け入れるのですが、今回は応募が少な
かった模様で、受入が1人と少し寂しい状況です。
しかし、彼女は積極的に活動に参加し、間もなく
開催される政策立案コンテスト「未来国会
2022」の地方予選の発表に向け、準備を進めてい
ます。このコンテストは、「もしあなたが日本の
総理大臣ならば」という設定のもと、30年後の
日本の「ビジョン」を描きながら、10年後の
「政策」・「予算案」を提案するもので、国内最大
の政策コンテストです。

そこで、本日はみなさんに今、準備を進めてい
る彼女の発表を聞いていただきたいと思います。

名古屋学院大学 大塚 美咲様

日比議員のもとでインターンシップ活動を行っ
ている名古屋学院大学1年 大塚美咲です。本日は
よろしくお願いいたします。

私は30年後の日本のビジョンそして政策を考
えるためにまず近年の問題に着目しました。そして
最近では物価の高騰が問題になっていると考えま
した。特に「食品」は私たちの生活に大きな影響
を与えます。

なぜ、食品の物価が上昇するのか。それはウク
ライナ侵攻などの海外情勢から受ける影響が大
きいからです。

そこで私は日本の食料自給率に着目しました。
日本の食料自給率は38%で残りの62%が輸入に
頼っています。日本の食料自給率をもっと上がれば
海外情勢に振り回されることなく安定した価格で
食品を市場に並べることが出来ると考えました。

日本の食料自給率を上げるためには農業をもつ
と発展させなければならないのですが、年々農
業従事者が減っているのが現実です。

このことから私は、「農家の数を増やして、海外
情勢が原因で食料を十分に輸入できないときに国
内生産で国民の食料をまかなえる未来を作りたい
」「誰でも農業ができる未来を作りたい」とそ
ういうビジョンを持ちました。

そして、農業が衰退している原因を大きく3つ
に分けてみました。1つ目は高齢化、2つ目は農
業人口の減少、3つ目は耕作放棄地の増加です。
そこで私は各問題に対する3つの重点政策という
ものを打ち出しました。

1つ目は農業の脱高齢化政策です。

農業の高齢化は後継者不足が原因だと分かりま
した。そこで若い後継者を増やして高齢化を防ぐ
ために、農業のVRゲームや学校行事で農業体験
をする政策を打ち出しました。予算はVRゲーム
を作るのに1000万円と学校行事の農業体験に年
間36億円です。内訳は全国の小中学校合わせた
3万校×市民農園の畑の1年の貸出代12万円です。

この政策を行うことによって小さい頃から農業
に触れることが出来るため、農業を身近に感じ
て将来の夢の選択肢が増える他、田舎都会関係
なくVRで農業体験が出来ます。

2つ目は農業人口減少 ストップ政策です。

農業人口が減少している原因の1つが農業が肉
体的にハードな仕事だからです。
そこで私は、ドローンやアシストスーツなどの農
作業機械の購入に補助金を支給して、今の農業従
事者をこれ以上減らさない政策を打ち出しまし
た。予算は年間200億円です。内訳は100万円の
補助金×2万人の認定農業者です。

認定農業者とは農業にやる気と意欲があり、職
業として農業に取り組んでいる農業者や農業法
人、あるいはこれから農業経営を営もうとする
者を市町村が認定し、関係機関・団体から重点
的に支援措置を受けている人です。

要するに農業を頑張っていると市町村に認めら
れ手厚い支援を受けている人のことです。

認定農業者は現在23万人いるので、10年に1
度、この補助金を受けられる制度にしました。
補助金を受けることで、農作業機械の導入が進
み、効率が上がって生産高が上がると考えられま
す。

3つ目に耕作放棄地削減政策です。

耕作放棄地とは、農作物が1年以上作付けされ
ず、農家が数年の内に作付けする予定が無いと回
答した田畑、果樹園のことです。

耕作放棄地の増加は労働力不足が原因だと分か
りました。

そこで、新規 農業従事者だけに、耕作放棄地
を預けるのではなく、手が余っているベテランの

農家さんに土地を貸す政策を考えました。そのために、耕作放棄地のほ場整備をする必要があります。予算は年間 460 億円です。

内訳は 1ha の土地をほ場整備するのに 1400 万円かかります。そして耕作放棄地の面積は 10 万 ha なことから 10 万 ha×1400 万円で 1 兆 4 千億円です。

しかしこの政策は 30 年かけて行う予定のため 30 で割り、1 年にかかる予算は 460 億円です。この政策を行うことによって、新規就農者や土地を増やしたい農家と、農業を引退して、農地をもて余している人をマッチングすることができ、耕作放棄地の有効活用が出来ます。

全部の予算を合わせると年間約 700 億円の予算が必要なことが分かりました。

この増額予算の原資として、医療費、雇用保険の予算の一部をあてることにしました。

農作業をして、元気なおじいちゃん、おばあちゃんが増えるため、医療費の節約が出来るようになることと、農業従事者が増えるので失業者が減ることから、この項目から予算を削ることが出来ると考えました。

また、日本の農産物輸入高は約 7 兆円です。このことから日本の食料自給率を 1% 上昇させることで年間約 1100 億円の支出を抑えることが出来ると考えました。

この政策を行って日本の食料自給率を上げたら、国として大きくコストを軽減することが出来るため、先行投資をしても損はないと考えました。以上で発表を終わります。ありがとうございました。

日比 雄将君

ご清聴頂きありがとうございました。彼女は決して農業に親しい環境で育ったわけではありません。むしろ完全に素人です。彼女は、純粹に今この国で起こっていること、そして将来への課題解決に向け今から手を打つべき取組は何なのか、という観点からテーマを考え、「農業」について政策立案を行いました。私が誘導したわけではありません。というのも、正直、私自身は農業が苦手分野です。ですから、大したアドバイスもできませんでした。本日の発表は彼女自らインターネット等で調べ、また愛知県の職員に話を聞きながら勉強を進めてきたものです。まだまだ準備が足りていませんし、発表もおぼつかないところが多々あったと思いますので、本番に向けて修正していきたいと思います。

さて、ここからは私の話をさせていただきます。私自身も久しぶりの卓話となり、またその間に会員の方も変わっていますので、まず自己紹介をさせていただきますと思います。

私は昭和 48 年 4 月生まれで現在 49 歳、生まれは名古屋市ですが、父親が転勤族であったため、

その後全国を転々とし、小学校 2 年生から大学を卒業するまでは東京で過ごしました。

しかし就職に際しては、両親が名古屋の人間で、親戚等もみな愛知県在住であったことから、東京と愛知の両方で就職活動を行いました。そして「地域の発展とともに成長できる会社に入りたい」という私の思いを一番叶えられると感じた中部電力株式会社に決め、平成 8 年に入社しました。

入社してから 12 年間は普通の会社員として営業部門や人事部門に所属していました。そんな私の会社生活に転機が訪れたのは平成 20 年。当時は営業部門にいましたが、その時の上司に「労働組合から組合役員としてのオファーがあるけどどうする？断ってもいいぞ！」という話を受けました。言い方はこんな感じですが、たいていこういう時には社内で「根回し」がされているものです。よほど嫌であったならば断わるという選択肢もあったかもしれませんが、私はあんまり深く考えない性分なので、行きます！と二つ返事をして、以降、会社とは少し離れた生活を送ることになりました。

労働組合とは組合員の生活向上のために、労働条件の交渉や組合員の家族を含めた各種イベントの企画、時には個人的な相談等を行います。多岐にわたる仕事ですが、それまで会社業務にしか目が向かなかった私にとって、視野が大きく広がる有意義な機会でした。

その中の一つが政治活動です。仕事とはいえ、様々な議員と直に話をすることができ、それまで政治について無関心に近かった自分に「議員の仕事をもっと知ってもらいたい。特に若い世代に政治について関心を持ってもらいたい。」との気持ちが芽生えました。

そんな中、平成 23 年の愛知県議会議員選挙に立候補をさせていただく機会を得て、現在に至っております。

今年は 3 期目の任期最終年にあたります。政治の世界では期数が比較的重視されることから、まだ若輩者の私ではありますが、所属する 32 人の会派「新政あいち県議団」では総務会長や副幹事長といった職務に就いた後、昨年度は政策調査会長を務めました。

政策調査会長は名前のとおり、32 人の仲間の意見を政策や要望としてまとめ、知事や県に訴える仕事を中心となります。通常、議会というのは年 4 回、定例会として開かれるのですが、昨年度はコロナ、コロナ、またコロナの年でしたので、臨時議会が毎月開かれ、対策に必要な予算を都度、審議しました。こうした臨時議会は突発的に開かれることから、直前まで予算の中身が固まりません。審議に必要な質問作成に与えられる時間は数時間という、瞬発力が求められることが多く、会派を代表して行う質問は政策調査会長の私に委ね

られることとなりました。また、知事に対する予算や施策の要望活動も例年は年1回程度であったものが、5回行うこととなり、おそらく歴代の政策調査会長の中で、一番仕事をした政策調査会長となりました。非常に繁忙であった一方、大変勉強になった1年でありました。

コロナ対策は取組や予算の大枠は国が決める一方で、実際の運営や細かな施策は各都道府県が決定することから、県や議会の力量が問われます。報道では東京都の小池知事や大阪府の吉村知事がクローズアップされ、私たちの大村知事はインターネットを中心に批判的な意見も多々見受けられましたが、私が知事のそばで見ている限り、適時適切かつ柔軟な対応を取られていたと思います。

例えば、昨年春、感染拡大に対して初めての本格的対策となったワクチン接種が開始された際、いち早く県独自の大規模集団接種会場を設けたのが愛知県です。なお、東京と大阪で開設された大規模集団接種会場は国が実施したものです。円滑な運用ができた背景には、市町村に配布され、当時、数に限りがあったファイザー製ワクチンではなく、明確な運用方法が決定されていなかったモデルナ製ワクチンの確保に奔走し、先手必勝で必要量を確保した先見性がありました。

また、私たちの声にも速やかに対応頂きました。数点事例をあげると、例えば、今、触れましたワクチン接種が始まった際、地域性を考慮した大規模集団接種会場の複数箇所開設や企業を始めとした民間施設での接種推進を私たちの会派から要望した際、速やかに対応いただきました。また、私が昨年12月に議会で保健所機能の見直しについて質問した際には、保健所が適切に機能するよう、健康観察など様々な業務を外部委託化する決断を頂きました。当時は第5波が収束したタイミングで、後に感染者数が桁違いとなったオミクロン株流行の前でしたので、この判断は非常に良かったと思っています。そして、オミクロン株が流行し始めた今年2月のコロナ対策特別委員会では、私は学校における臨時休業基準の緩和を求めました。というのも、当時は至るところで学校が臨時休業し、子ども、保護者、先生とみんなが困っていたからです。しかし、教育委員会からは否定的な回答しか貰えませんでした。ところが、なんとその2日後に基準緩和が公表されました。このようなことは通常発生しないため、何が起きたのか確認したところ、知事は委員会には出席しないのですが、そのやり取りが大村知事に報告され、「日比の言うとおりの、基準を緩和すべき」と知事が即座に決断したとのことでした。

コロナ対策は現在も続いており、また燃油や物価等の高騰による影響は社会生活に大きな影響を及ぼしています。

まもなく9月議会が始まりますので、引き続きこうした対策に取り組み、皆様の声をしっかり県に届けてまいります。

以上で、私の卓話を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。



米山奨学金授与 劉 履 様



地区会員増強委員会委員長 石井 弘子 君



委員会報告 親睦活動委員会 岩村 幸正 君



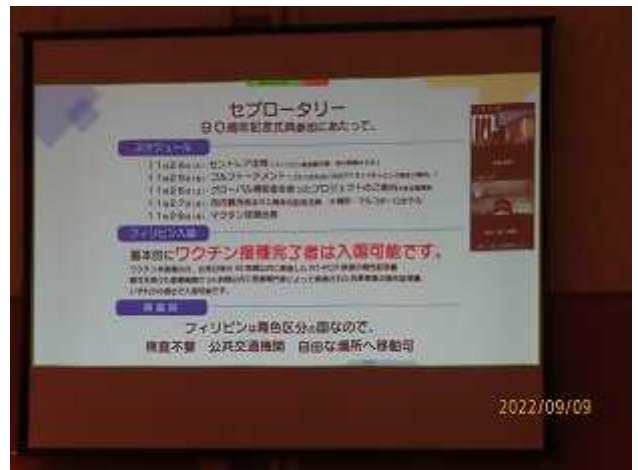
会長挨拶 加藤 宗生君



国際奉仕委員会報告 小柳出和文君



卓話 日比 雄将君



セブロータリー90周年記念事業参加説明



卓話 名古屋学院大学 大塚 美咲様



幹事報告 下田 育雄君